

二年間を振り返って～祝 二期生修了～

二期生へのお祝いの言葉

2020年3月 森脇 健夫

皆さん、教職大学院の修了、おめでとうございます。

あらゆる意味で一生思い出に残る修了になりましたね。私も三重大学、28年間でおそらく2020年3月は、2011年とともにもっとも忘れられない3月になりそうです。「あの時は〇〇だった」とあとでお酒の肴になるといいですね。

1期生のパイオニア精神あふれた姿にも感動しましたが、2期生もそれに勝るとも劣らない姿を見せていただき、教職大学院を開学して本当によかった、と思えた二年間でした。2期生の特徴は、私の直観的な物言いですが、人間的な関係が濃密という感じがします。人懐っこいという性格の方が多いのかもしれませんが、対話的な関係の中で学ぶことができるのがすばらしいと思います。学修成果報告書を完成させてからも研究室にお話に来てくれる学生が何名かいたことにとっても嬉しく思いました。

4月から学校現場に戻る、また新たに参入するわけですが、まだ事態がとても流動的でどのようなことが起きるかわかりません。そうしたことに不安はあると思いますが、教育活動は不易の部分が多いので、あわてずさわがず対応してください。また何かあれば、教職大学院に相談がてら遊びにきてください。

奈良女子大学附属小学校の杉澤学先生の授業を一日中参観したこと。タイの学校を10日間に渡って参観したこと。学会発表。ゼミ合宿。森脇健夫教授との学び。一流の教授陣による専門的な学び。これらは教職大学院だからできたことです。導いてくださった先生方、語り合える仲間。素晴らしい出会いの中で、教師として成長するための贅沢な時間を過ごしました。この二年間の学びを生かし、これからの教師生活を全力で努める決意です。

赤坂 珠子(学校経営力開発コース)

自身の実践は経験の蓄積でしかないことに不安を覚え、入学した2年前。大学院では、様々な理論を学ぶことにより、無知を知るとともに自身の実践を振り返ることができた。学んだ理論で実践を振り返ると、実践は確かなものになるだけでなく、新たな実践の創造にもつながる。理論と実践の「往還」の意味を実感することができた。この2年間で得られた学びをもとに、学校現場における人材育成と教師集団づくりに貢献していきたい。

大浦 亜紀(学校経営力開発コース)

2020年度、小学校で外国語の早期化・教科化が始まります。私は、中学校英語科教員と小学校教員の経験から、中学校の前倒しでない小学校外国語の指導を考えたいと、教職大学院へ入学しました。読み・書きのあり方を探るうちに、小学校では「表現活動」から「読みたい・書きたい」思いを育てるような授業づくりを大切にすべきではないかという思いに至りました。学びを深める過程で出会った多くの人のつながりが、宝となりました。

大西 恵美子(学校経営力開発コース)

大学院で学んだ学習指導要領の変遷・学校経営・教育方法論は、それぞれ制度・組織(学校)・授業に対応しています。これらについて温かい教授陣と、意識の高い学生たちと対話的に学ぶことが出来ました。現任校実習は、学んだ理論を現場に活用する機会となり、体系的に学ぶことの重要性、実践する充実感を、思う存分味わいました。自分の中に理論(仮説)があるだけで、これほど実践が変わるのか!と我ながらびっくりしています。

黒田健太郎(学校経営力開発コース)

無我夢中で走り続けた2年間を終えようとしている。完成した報告書を読み返すと、多くの学びと出会いがあったことがわかる。大学院で最も学んだことは次の心構えである。①「動けば変わる。率先垂範で、変化の渦の中心になる。」②「やるかやらないか?迷ったらやるべきだ。」③「仕事は意欲と能力のある忙しい人に集まる。」④「真価が問われるのはこれからだ。」同時に深い感謝を添えます。ありがとうございました。

島田 敏行(学校経営力開発コース)

教職大学院での二年間は教師としての自分を振り返ることのできた貴重な機会でした。そのきっかけの一つが、同期として共に学んだ現職の先生方やストレートマスターの方たちとの出会いです。日々の授業の中で教育について考え議論し、お互いを高め合うことができました。また、自らの研究テーマについて二年間を通して深く追求したことで、教育者として成長することもできたと感じています。そして、何より教師という仕事の魅力と素晴らしさを再認識できたことが私にとっての最大の学びでした。

田中 克哉(学校経営力開発コース)

私は、学校組織マネジメントと人材育成を中心に学修を深めました。教育委員会や関係者の皆様、諸先生方から、学校を俯瞰的にとらえる視点を教えていただきました。私自身にどれほどの専門性が身についたのか。それは、今後の三重県教育への貢献にかかっていると思っています。2年間、自らの行動や思考そのものを省察することができましたのも、大学院での講義・長期実習・院生どうしの学び等のおかげです。心より感謝申し上げます。

西村 佳子(学校経営力開発コース)

「たくさんの授業を参観したい」これが、私が大学院に入学する目的の一つでした。そして、入学後すぐに「省察」という言葉を知りました。「授業を参観したい」という従来の目的に「省察」という意義が加わり、自分の授業を振り返るきっかけとなりました。この気持ちをまわりに発信、啓発、共有していくことが、次の課題であると感じています。2年間、たくさんの方々のお陰で、私は良い学びができました。心より感謝申し上げます。

林 敬一郎(学校経営力開発コース)

三重大学教職大学院で過ごした2年間はとても充実した時間でした。講義、長期実習、先生方や共に学び合った仲間から多くのことを学ぶことができました。アクティブ・ラーニングを研究する中で、どのようにすれば生徒に数学の面白さを伝えられるかと授業を考えることが楽しくなりました。生徒から「なぜ?」「不思議」などのつぶやきを聞いたときは、とても嬉しく感じられました。今後は2年間で学んだことを活かし、生徒にとって楽しくわかる数学の授業を追究していきたいです。

前川 友彦(学校経営力開発コース)

入学当初の学修テーマは「iの存在意義」であった。とにかく色々なものを学びたい!と、外にベクトルが向いていた。一期生の「やりたいことは授業改善ですか?」という質問に答えられなかった。しかし、理論を学び、色々なものを吸収していく中で、「自分は何をしたいのか?」と、内にベクトルが向くようになった結果、「やりたいことは授業改善(AL)」であることがわかった。今、やりたかった授業ができています。大学院に来て本当に良かった。

三浦早矢加(学校経営力開発コース)

この2年間の研究を振り返ると、進んでは戻りの繰り返しの連続であった。しかし、何度も自身の考えを振り返ることができたからこそ、研究の質を高めることや自身の授業に対する考え方の変容につながった。また、研究を進める中で、常に研究的視点をもって物事をみること、すなわち、理論と実践を往還できる力を高めることができた。4月から教員人生の出発点に立つ。常に子どもたちと向き合い、ともに成長できる教師でありたい。

稲垣 知大(教育実践力開発コース)

私が三重大学教職大学院に来てよかったことは、道徳科を研究するにあたって、自分の課題と向き合うことができたことです。2年間を通して、自分の目指す授業や児童の姿を追いかけ、常に研鑽することで、自分に足りない点が現れてきました。そして、その課題に一つずつ向き合い、乗り越え、次に進んでいくことで成長することができました。まだまだ自分には、足りない点が多いです。そのため、卒業後も自分の課題に向き合い続け、成長し続けたいと思います。

大下 竜平(教育実践力開発コース)

三重大学教職大学院での2年間の学修を終え、生徒がこの先の未来を生き抜くために必要な力とは何かを意識し、授業の中で育てていくような授業作りを行うことができました。それは毎回の講義や様々な学会への参加、小・中学校での授業実践など幅広く学んだからだと思います。4月から教師として教壇に立ちます。この先も理論と実践の往還を積み重ね、教師としての力量を更に磨いていきたいと思っています。

長谷川雄也(教育実践力開発コース)

自らの持つ「問い」を大切に、向き合い、追究した日々でした。私の学びは、教育や社会科の多方向に広がり、深まりました。授業実践で思うようにいかない時、「良い授業をするにはどうすればいいだろう」「そもそも良い授業とはなんだろう」、やはり「問い」が私の原動力になりました。今後の教員生活においても「問い」こそが改善への第一歩であると信じ、学び続けていきます。2年間ありがとうございました。

松葉 光平(教育実践力開発コース)

大学を卒業して、そのまま教師になるという選択肢もありましたが、教職大学院に来て良かったと思っています。教職大学院において理論に裏打ちされた実践を行うことで、何事にも代えがたい濃密な2年間を過ごすことができました。長期実習では、たつぷりと授業を観察し実践に臨むことで、自身の実践において非常に参考になりました。これからは2年間で得た理論と実践を基に、実践家として更なる研鑽に励みたいと思います。

松葉 憲彦(教育実践力開発コース)

教職大学院では、「つまずき」についてひたすら追究することを通して、私自身の教員としての資質・能力が磨かれました。特に連携校実習においては、指導の先生から研究以上に学べるものが多く、授業形態や視点・意識など、授業とはどうあるべきかという考えが大きく変革し、今後の自分の核となるだろうと確信しています。院での2年間は、これからの教師生活に向けてかけがえのない時間となりました。

渡辺 瑛大(教育実践力開発コース)

編集・発行 三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻(教職大学院) 広報担当

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577 ☒ info-mkd@edu.mie-u.ac.jp

三重大学教職大学院ウェブサイト <http://mkd.edu.mie-u.ac.jp>